

「穂いもち」注意報発表！

「葉いもち」の発生を確認したら、直ちに防除！

- 管内各地で「葉いもち」の発生が確認されています。
- 感染好適日が連続して出現しており、さらなる発生拡大が懸念されます。
- 早急に圃場を見回り、**葉いもちの発生がみられるほ場では、直ちに治療効果のある薬剤（ブラシン剤、トライ剤、カスミン剤等）で防除**を行いましょう。**ラベルをよく読んで使用！**

※特別栽培の場合、使用できる農薬が生産計画で決まっているため、確認が必要です。

- 穂いもちの基本防除は「穂孕後期」と「穂揃期」の2回、適期を逃さず、必ず実施しましょう。葉いもちの発生が多い圃場では穂揃期の7日後にも防除を実施しましょう。



葉いもち病斑（急性型）

～いもち病は、**収量減、品質低下に直接結びつく病害**です。
防除対策を徹底し、被害拡大を防ぎましょう！～

「斑点米カメムシ類の発生」多い！

- 斑点米カメムシ類防除の基本は、「穂揃期」+「穂揃期の7～10日後」の2回です。適期防除を実践しましょう。
- 発生状況によっては、穂揃期の7～10日後から、更に7～10日後の補完防除を行いましょう。



アカヒゲホソドリカスミカメ



アカスジカスミカメ

間断かん水で根の活力維持、出穂後は湛水管理！

- 出穂までは間断かん水（2日湛水・2日落水）を維持し、根の活力を維持します。
- 穂揃い期頃は最も水分を必要とする時期です。湛水状態とし水を切らさないようにしまししょう。
- 今後1か月は気温が高くなる予報です。**高温時は水を動かし水田の水温と地温を下げるような水管理、または飽水管理**で根の活力を維持する水管理に努めましよう。

農作業事故・熱中症に注意しましょう！